



東北復興 PSW にゆうす

去る3月18日と19日の2日間、復興支縁ツアーinみやぎが開催されました。今回は、大変お世話になった(公社)日本精神保健福祉士協会宮城県支部長(宮城県精神保健福祉士協会会長)の小野様よりメッセージをご寄稿いただきました。7年目を迎えた現況をお聞かせいただきます。

支部長メッセージ



「こころの復興に向けて」

(公社) 日本精神保健福祉士協会宮城県支部
宮城県精神保健福祉士協会
支部長・会長 小野正生



今回「東北復興 PSW にゆうす」のバトンを再び宮城でお預かりしました。世界を震撼させた東日本大震災から6年が経過しました。

いま私の勤務地は宮城県石巻市にあります。法務省保護観察所に集中復興期間による復興支援の予算が震災翌年に計上され、5年の時限のうち最後の2年を石巻地区で勤務することとなり、最終年度を終えるところとなりました。

あれから6年、宮城県内の被災地に山積みされた瓦礫は撤去され、道路や鉄道、公共施設などインフラ復旧が進み、産業や住まいの再建など復興への歩みを始めました。しかしながら多くの方々が困難な状況のなかで復興への長い道のりを覚悟し生活をしています。

被災地の多くの方々は大切な親族や知人縁者を亡くしておられ、行き場のない気持ちを抱えて生きています。混乱期を脱した方々がいるのも確かですが、経済問題、家庭問題、高齢化問題、アルコール関連問題の増加など、環境変化を余儀なく受け、喪失体験や孤独孤立を口にすることもできなくなっている方々がいることを忘れてはいけなと考えております。

今年は折しも7回忌にあたる年となりました。3.11には沿岸部の市町では追悼式や慰霊祭が行われました。いまだ宮城県では1,200人余りが行方不明となっております。私も被災地の支援者同様に「こころのケア」はこれからが正念場になるのだと考えます。

また被災地で構築したソーシャルサポートを安定的に運用維持出来るかがこれからの大きな課題のひとつになるのだと考えております。

私たち精神保健福祉士に何が出来るのか、連携をどのように深めて深化させていくのか、被災地に精神保健福祉士が持つ手法や強みを発揮させ根付かせていくのかを改めて考えて行きたいと思っております。

最後に、これまで支援に来て頂いた皆さま、各地から応援して下さいました皆さまに心から感謝申し上げます。



石巻の日和山からの風景



女川地域医療センター(旧女川町立病院)からの風景

復興支縁ツアーin みやぎの様子

1日目 (3/18)



○NPO 法人きらら女川 松原千晶所長のお話
@まちなか交流館



○シーパルピア
女川散策

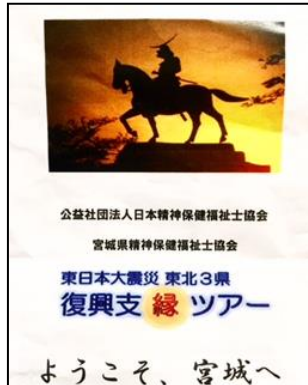


○女川町復興祭&石巻の交流の夜

ツアー横断幕



たくさんのメッセージをのせて



ようこそ、宮城へ

渾身のツアーパンフ!



ありがとう南三陸観光バス

2日目 (3/19)

○語り部ガイドさん



視察

- 南浜地区沿岸部
- 大川小学校 ○がんぱろう石巻看板
- 東松島市震災復興伝承館



○みやぎ心のケアセンター新井弘美さんのお話



ツアー参加者の声 日山春奈さん (広島県支部)

私が精神保健福祉士を目指すきっかけの一つとなったのが、6年前の東日本大震災でした。当時、私はまだ高校を卒業したばかりでした。私は今まで東北の現状を直接見たことはなく、果たしてこのままで良いのであろうかと思ったこともありました。精神保健福祉士として就職し、震災から6年が経った今年、復興支縁ツアーの案内を見た時にはとても縁を感じました。

きらら女川の松原所長のお話や、語り部ガイドさんによるお話を伺い、また沿岸の視察をすることで、6年というのは長いようでまだまだ全てが完全に復興したわけではないのだという厳しい現状を突き付けられました。私は精神保健福祉士になったばかりの頃は、自分が被災された方へ支援ができるとは思っていませんでした。しかし、直接お話を聞いたり心のケアをしたりすることだけが支援なのではなく、東北の現状を目で見て知るといことも大切なことだと感じました。テレビで報道されることが少なくなっても、自分の目で見たいものを忘れないでいること、東北の方々笑顔になるには何が必要なのかを考えること等、精神保健福祉士として、1人の人間としてできることは自分で見つけられるのではないかと感じました。

今回のツアーでは、様々なことを学び、参加者の方と親睦を深められたり、宮城の特産品を味わえたりとツアーを楽しめました。

復興支縁ツアーに参加し、非常に貴重な体験をさせていただいたことを本当に嬉しく思います。

是非、来年も参加させていただきたいです。



マスコット
キャラクター 「えんが〜る」

【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会 WEB サイトにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。

メッセージ投稿方法: 東日本大震災復興支援委員会宛の FAX もしくは E-mail (office@japsw.or.jp) にてお願いいたします。

★★題名に「PSW にゆうすについて」とご記入をお願いいたします。★★

第26号 2017年5月15日発行

発行: 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町 23-3 四谷オーキッドビル 7F TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL: <http://www.japsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>